

■(トーマス=)グラバー スコットランド出身の実業家。武器商人として来日、薩長の志士らを支援し、維新後は転変。

ぐらばあ
適塾ワヅン・1838= スコットランドのアバディーンシャーシアのプレーザーバラで、沿岸警備隊の1等航海士トーマス=ペリー=グラバーとメアリーの間の8人兄弟姉妹の5人目に生まれる。洗礼名はブレイク。

阿部正弘首座1845= 7歳:

.....1847= 9歳:
少年時代から抜群の抜け目の無さを発揮、

ペリー来航・1853=15歳:

ギムナジウムを卒業した後、

松下村塾・・1856=18歳:
蕃書調所・・1857=19歳: フリーメイソンの会員から推薦されたのか、{ジャーディン・マセソン商会}の面接を受け、
五ヶ国条約・1858=20歳: 中国の上海に派遣され、開国された日本の噂を聞いて興味を抱き、会社の方針もあって、
安政の大獄・1859=21歳: 開港後まもない長崎に移り、イギリス領事館付き商会事務員として登録され、
桜田門外変・1860=22歳: 尊王攘夷の志士との面識を広げて信頼を得、大名にも近づく。
遣欧使節・・1861=23歳: 長崎に商業会議所が設立されると、代表委員の一人に選ばれ、先に中国入りしていた兄ジェームズとの関係で「中国商工人名録」にも記載される。遊郭遊びして男児をもうけるが夭折、以後遊郭通いは止まる。*{ジャーディン・マセソン商会}の長崎代理店として{グラバー商会}を設立し、貿易業を始め、
生麦事件・・1862=24歳: *イギリス大使館焼討ち事件をおこした長州藩士を匿い、とくに伊藤博文と懇意になって行き、
8月18日政変 1863=25歳: 長崎に来た弟のアレックスも合流。_伊藤ら長州五傑のイギリス密航を手引き、薩英戦争後匿った五代友厚に特別な資質を見出す。八月十八日の政変後の政治的混乱以後、薩摩・長州・土佐ら討幕派のための武器の調達が主たる仕事になり、亀山社中とも取引を行う。
禁門の変・・1864=26歳: 初めて軍艦の商取引に関わって手腕を発揮し、以後、郷里アバディーンでの日本軍艦の製造を仲介し、利益を{ジャーディン・マセソン商会}と折半、
薩摩藩士密航1865=27歳: 大浦海岸において蒸気機関車を走らせる。_五代ら薩摩藩志士のイギリス密航留学を支援、
薩長同盟・・1866=28歳: 本業の商売にも力を注ぎ、大規模な製茶工場を建設。_同盟締結した薩長とイギリス外務省の提携を主導、
大政奉還・・1867=29歳: 坂本竜馬が設立した会社の最重要の取引相手にもなるも、竜馬は直後に暗殺。一旦帰国するが、
明治維新・・1868=30歳: 日本で働き続けようとして戻り、_肥前藩と契約して高島炭鉱開発に着手し、長崎の小菅に船工場を造るが、
戊辰戦争終・1869=31歳: *戊辰戦争も終わって武器が売れなくなり、諸藩からの資金回収が滞り、高島炭鉱経営問題で{ジャーディン・マセソン商会}からも見放され、

初の日刊新聞1870=32歳: 五代から紹介されて結婚したツルに支えられ、長女ハナが誕生。_ {グラバー商会}は破産。
廃藩置県・・1871=33歳: その後ツルが子供を産めないと分かり、遊女との間に生まれていた男児を入籍し(倉場)富三郎とする一方、_新政府が造幣局を設立するのに関与して窮地を脱し、

明治6年政変 1873=35歳:
佐賀の乱・・1874=36歳: 日本政府がオランダ貿易会社から購入した_官営高島炭鉱の実質的経営者となり、
三つの反乱 1876=38歳: {三菱商会}岩崎弥太郎の顧問、外国との非公式な交渉役となって生活も落ち着き、
明治14年政変1881=43歳: 長崎のボルトガル領事に選任され、官営事業払い下げで三菱が高島炭鉱を買収してからも経営に当たり、
新体詩抄・・1882=44歳: 渡米潜行して土地投機を試みるが、
岩倉具視没・1883=45歳: 失敗して帰国。
内閣発足・・1885=47歳: 以後、{三菱}の相談役として、経営危機に陥った{スプリング=バレー=ブルワリー}の再建参画を岩崎に勧め、
国民之友始・1887=49歳: 以後、{鹿鳴館}の外国人名誉書記に任命される。
この間、2人の兄と両親の死に立ち会わずにいたが、
帝国憲法発布1889=51歳: 妹のマーサが来日して慰められ、以後、グラバー家を支えて貰う。

大本教・・・1892=54歳:

日清戦争始・1894=56歳: _ {ジャパン=ブルワリー=カンパニー}取締役を辞任するに際し、巨額の報奨金を贈られ、
公的にはなお長崎住民で{ナガサキクラブ}設立への参画を求められ、富三郎を主要メンバーにした後、
白馬会・・・1896=58歳: 三菱から提供された東京麻布の広大な隠居屋敷に転居、_再び自前の船舶斡旋業務に手を出し、
八幡製鉄始・1897=59歳: 妻ツルが病臥し、
_のちに日露戦争で決定的役割を果たす駆逐艦建造の件で、{ヤロー造船会社}の代理人を務め、
Bushidou・・1899=61歳: 妻ツルが死去。入社する回数は急速に減って行く。
以後、長崎小菅の船工場が大造船工場となって行くなど、{三菱}の発展を見守りながら、

田中正造直訴1901=63歳:
教科書疑獄・1902=64歳: アーネスト=サトウらに協力してきた*日英同盟調印が実現、全ての仕事が終わったと肩の荷を下ろし、
日比谷公園・1903=65歳: 妹マーサが死去。
日露戦争始・1904=66歳: 末弟アルフレッドも死去し、
日露戦争終・1905=67歳: _日露戦争に勝利した日本が大国の道を歩み始めるとともに、腎臓も悪化して、沈黙するようになり、

アヲヲ*創刊・1908=70歳: _外国人として破格の勲二等旭日重光章を授与されて、

韓国併合・・1910=72歳:

大逆事件判決1911=73歳: _没した。